

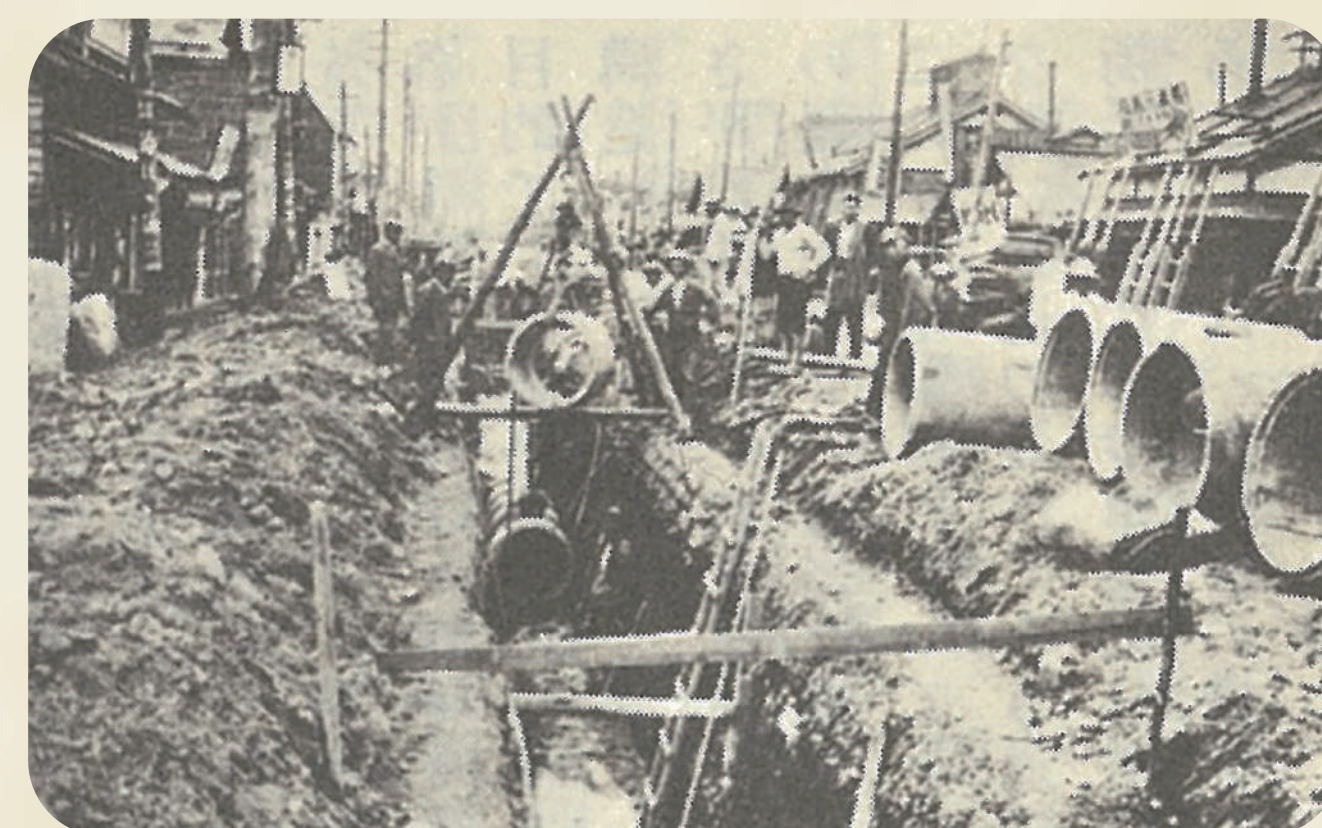
さっぽろ下水道100年のあゆみ

札幌市の下水道は大正15年の計画着手から令和8年に100周年を迎えました



1926年 下水道事業の始まり

雨水の排除を主な目的とし、札幌市の下水道事業が始まりました。
当時は、市街地の雨汚水を排除するための管路事業がほとんどでした。



下水道工事の様子(1920年代)

1950年頃～生活環境の改善、水質保全

この頃は工場排水や生活排水をほとんど河川にそのまま流していたため、
河川の汚染や周辺住民の健康被害を誘発していました。
生活環境の改善、河川などの水質保全のため、下水処理場の運転を開始しました。



豊平川の様子(1950年代)

1970年頃～下水道整備の加速

1972年の札幌冬季オリンピックの開催を契機として、下水道の整備が加速しました。
1990年代には下水道普及率が99%を超えるなど、多くの人が下水道を使用することができるようになりました。



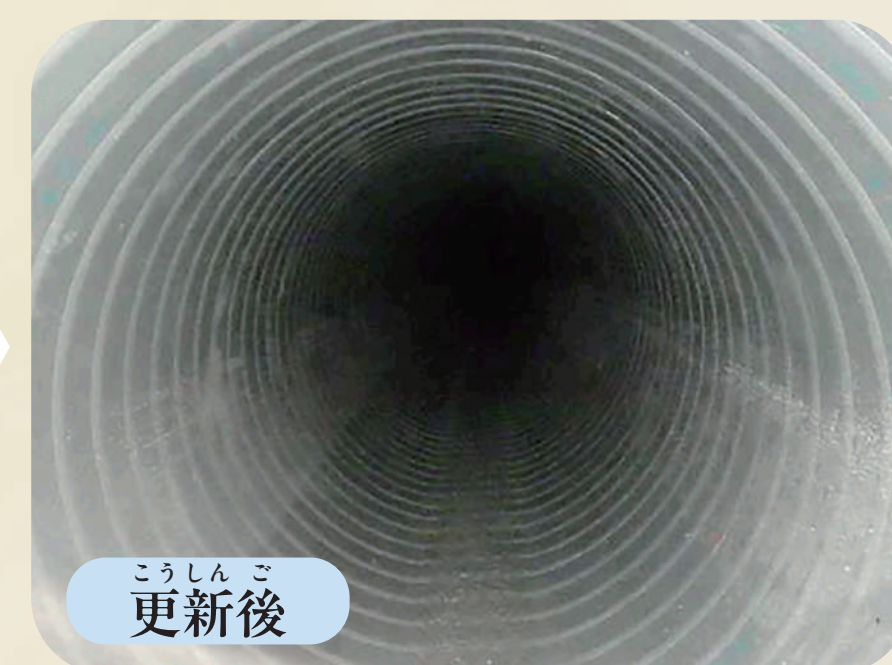
豊平川にサケが遡上する(1980年代)

1980年頃～新たなニーズへの対応

変化する社会情勢に対し、下水汚泥の減量化・有効利用、高度処理水を活用
した河川のせせらぎの回復、下水熱を利用した雪処理など、下水道のポテン
シャルを活かした様々な取組が進められました。

2010年頃～拡張から更新の時代へ

戦後の急激な人口増加や札幌冬季オリンピック開催を契機とし
て集中して整備したことから、老朽化した施設が増加しました。
下水道の機能を将来にわたって維持するために、施設を適切に維
持管理し、計画的に更新していくことが重要となりました。



内面が腐食した下水道管の更新イメージ

2026年 100周年

下水道施設の老朽化や自然災害の頻発化など、状況が変化中、暮らしを
支える下水道を未来につなぐため、札幌市下水道ビジョン(2026～2034)を
策定しました。
地球環境保全に貢献しながら、着実に施設の更新を進めていきます。



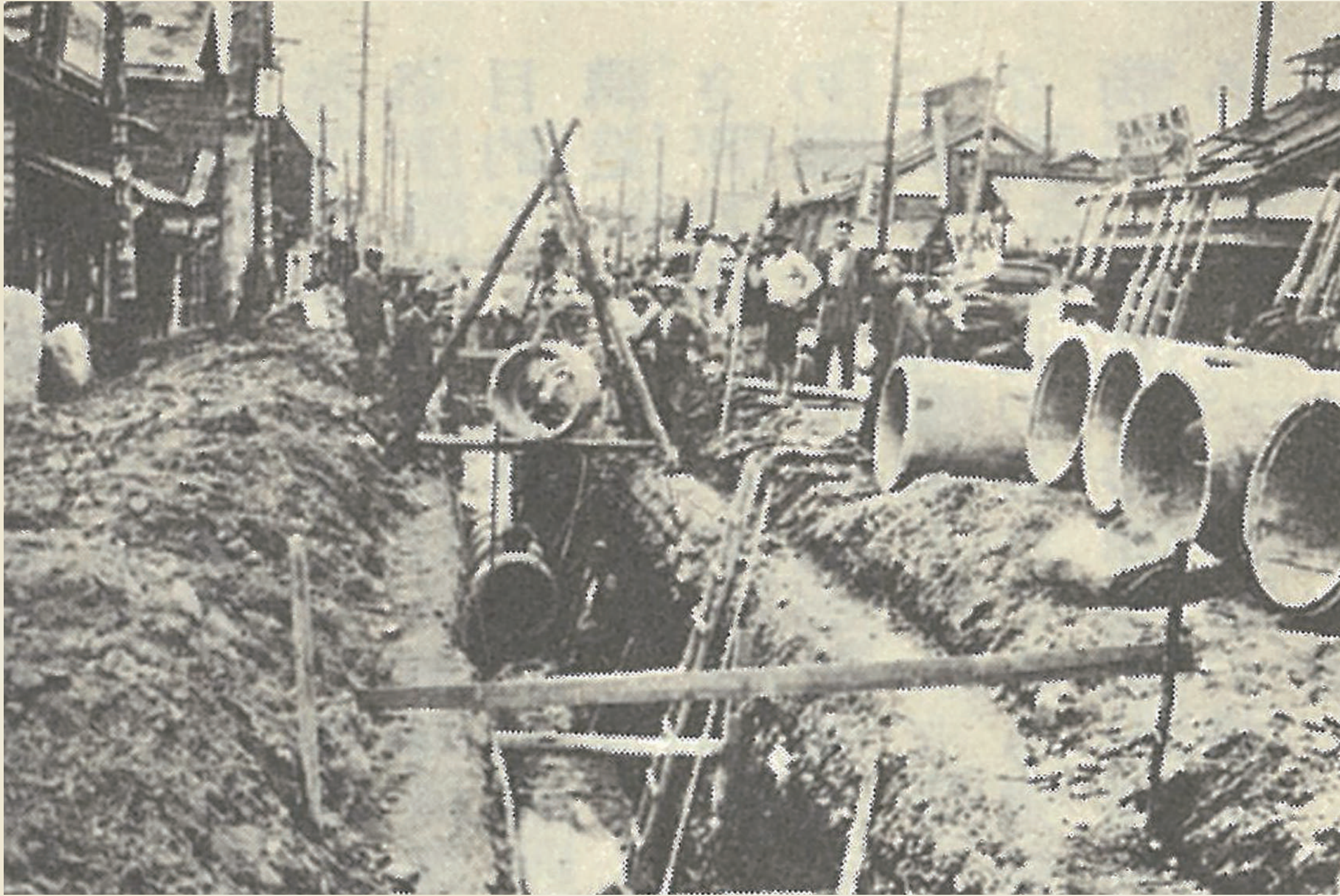
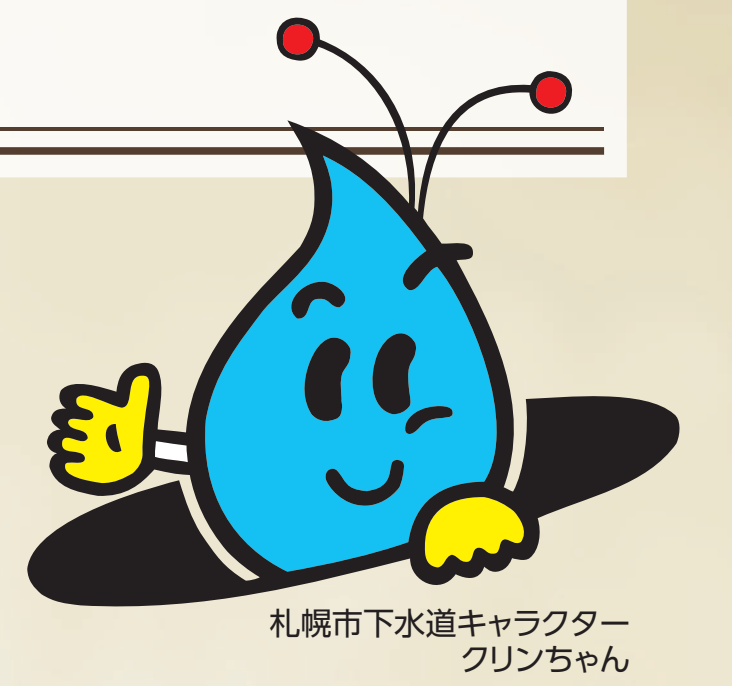
次の新たな100年の礎となる約10年間の計画
札幌市下水道ビジョン2026～2034



次の100年へ、
つながる下水道

札幌市下水道事業100周年 記念ロゴマーク&キャッチフレーズ

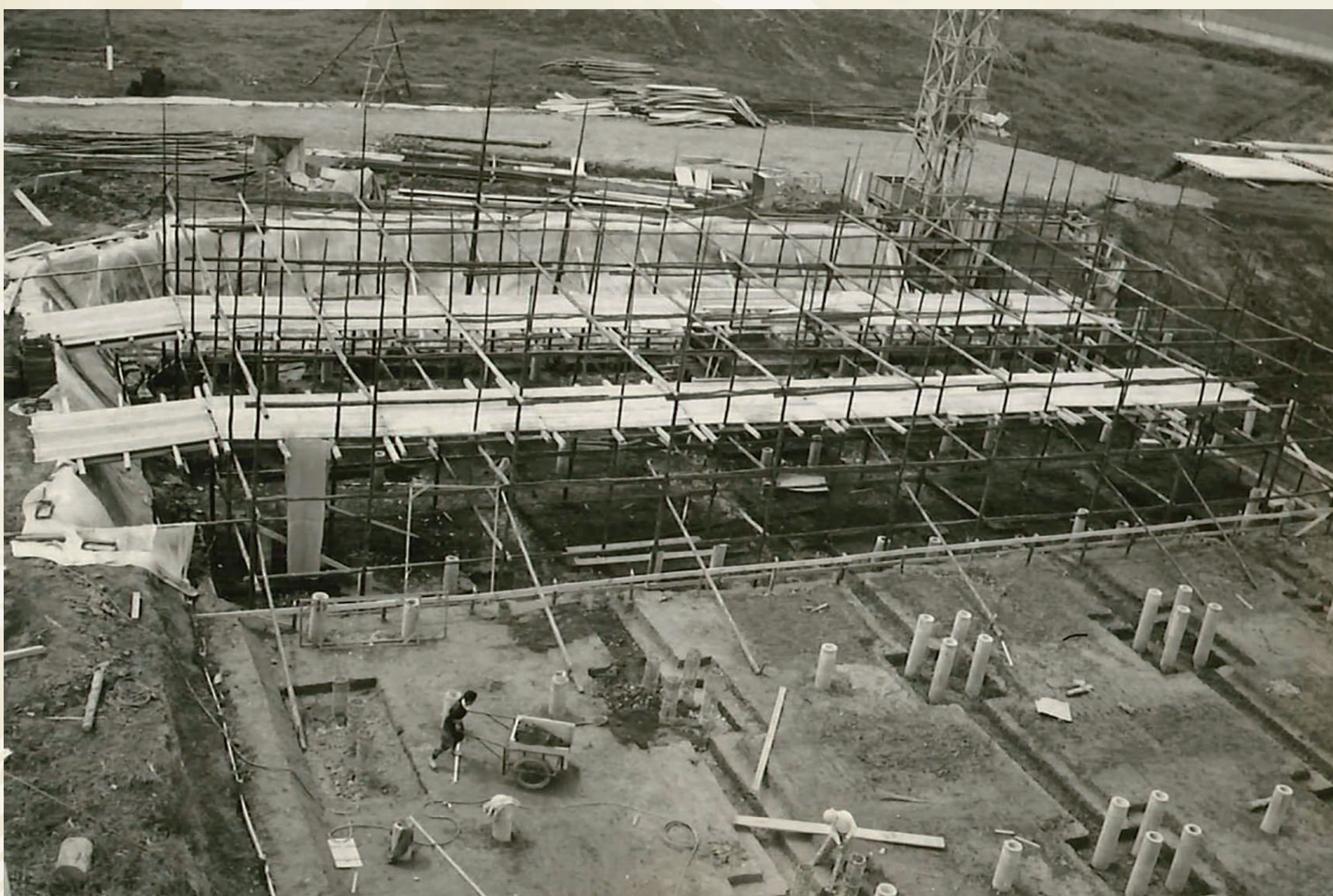
さっぽろ下水道100年のあゆみ



げ すい どう かん まい せつ こう じ よう す ねん だい
下水道管 埋設工事の様子(1920年代)



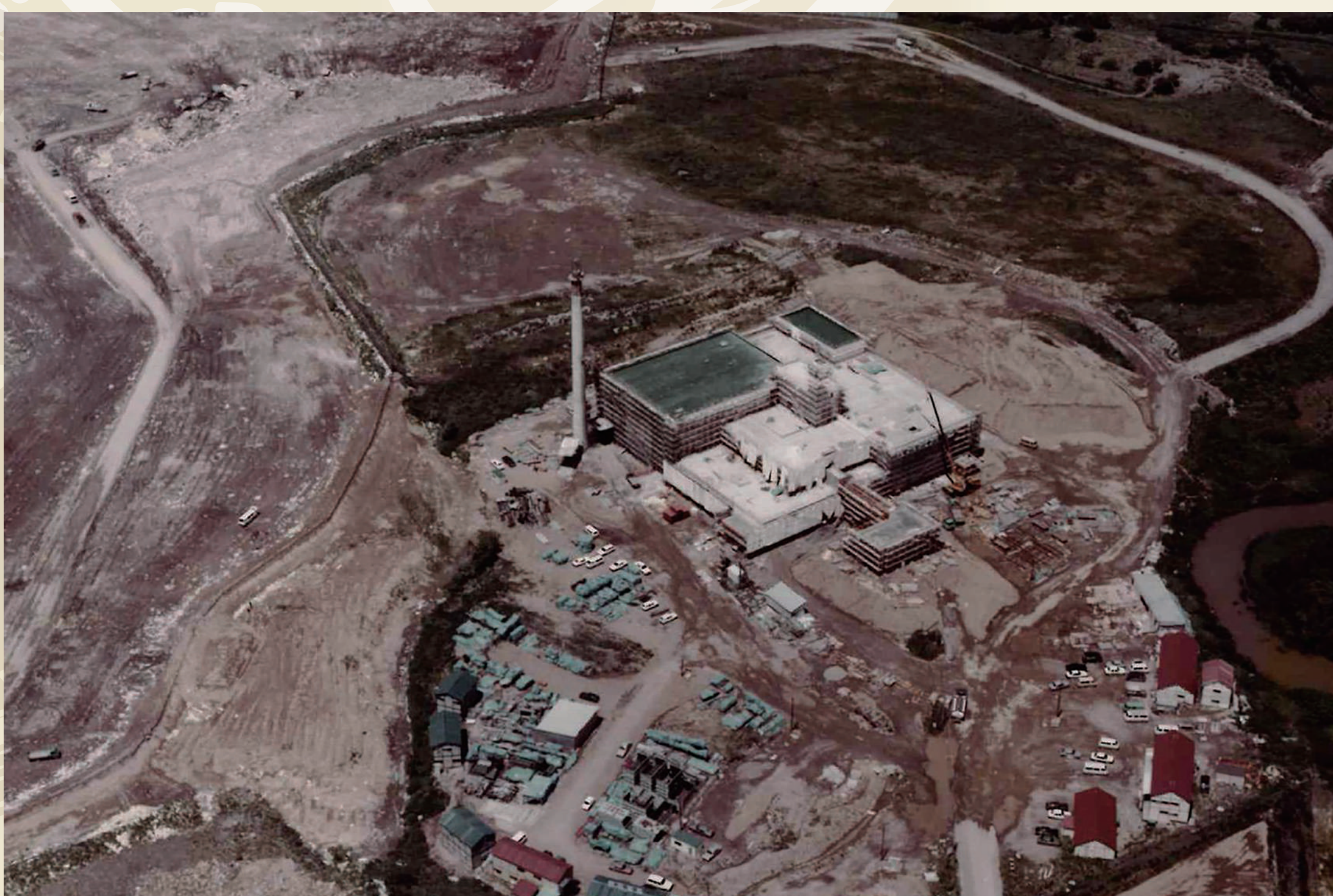
とよ ひら がわ よう す ねん だい
豊平川の様子(1950年代)



げ すい しょ り かわ ほうりゆう
下水を処理して川に放流する
そう せい がわ みず さい せい けん せつ よう す ねん だい
創成川水再生プラザ建設の様子(1960年代)



とよ ひら がわ そ じょう ねん だい
豊平川にサケが遡上する(1980年代)



げ すい しょ り あと はっ せい お だい しょ り
下水を処理した後に発生する”汚泥”を処理する
せい ぶ けん せつ よう す ねん だい
西部スラッジセンター建設の様子(1980年代)



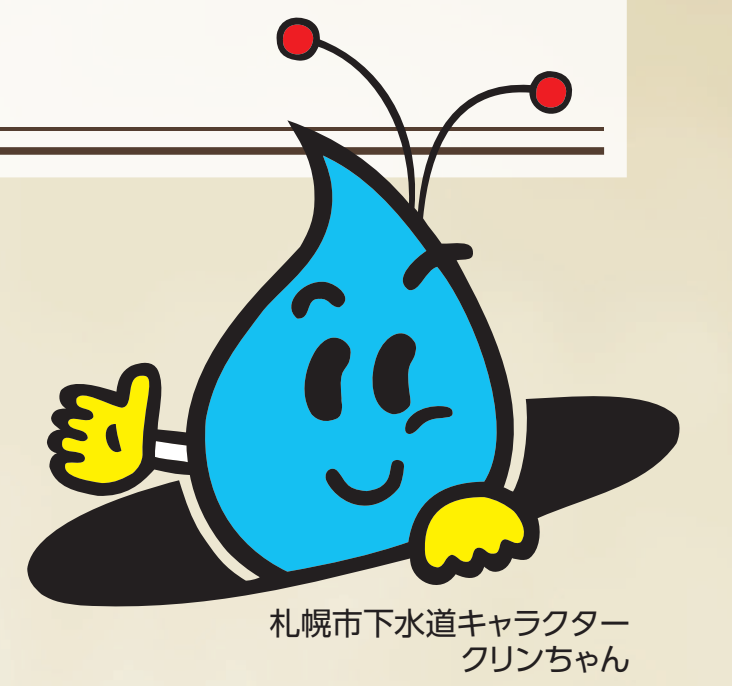
©札幌市公文書館所蔵

たい ふう き ろく て き おお あめ どう ろ かん すい
台風による記録的な大雨で道路が冠水
(1981年 56災害)



次の100年へ、
つながる下水道

さっぽろ下水道100年のあゆみ



あつべつ ゆう せつ そう うんてん かい し ねん
厚別融雪槽の運転開始(1993年)



こう どの しょり すい かつよう
“高度処理水”を活用し、
こ かつ か せん かい ふく やす はる がわ ねん
枯渇した河川のせせらぎを回復【安春川】(1992年)



さっぽろ し げ すい どう か がく かん ねん
札幌市下水道科学館オープン(1997年)



とう ぶ みず さいせい うんてん かい し ねん
東部水再生プラザ運転開始(2005年)
げん ざい しょ げ すい しょり じょうたい せい
現在の10か所の下水処理場体制へ



さっぽろ し はじ おお あめ とく べつ けい ほう はっぴょう ねん
札幌市で初めて大雨特別警報が発表(2014年)



とよ ひら がわ う すい ちよりゅう かん きょうよう かい し ねん
豊平川雨水貯留管供用開始(2015年)
かん せい ちよりゅう かん ない ある し みる む かい さい
完成した貯留管内を歩くイベントを市民向けに開催



次の100年へ、
つながる下水道

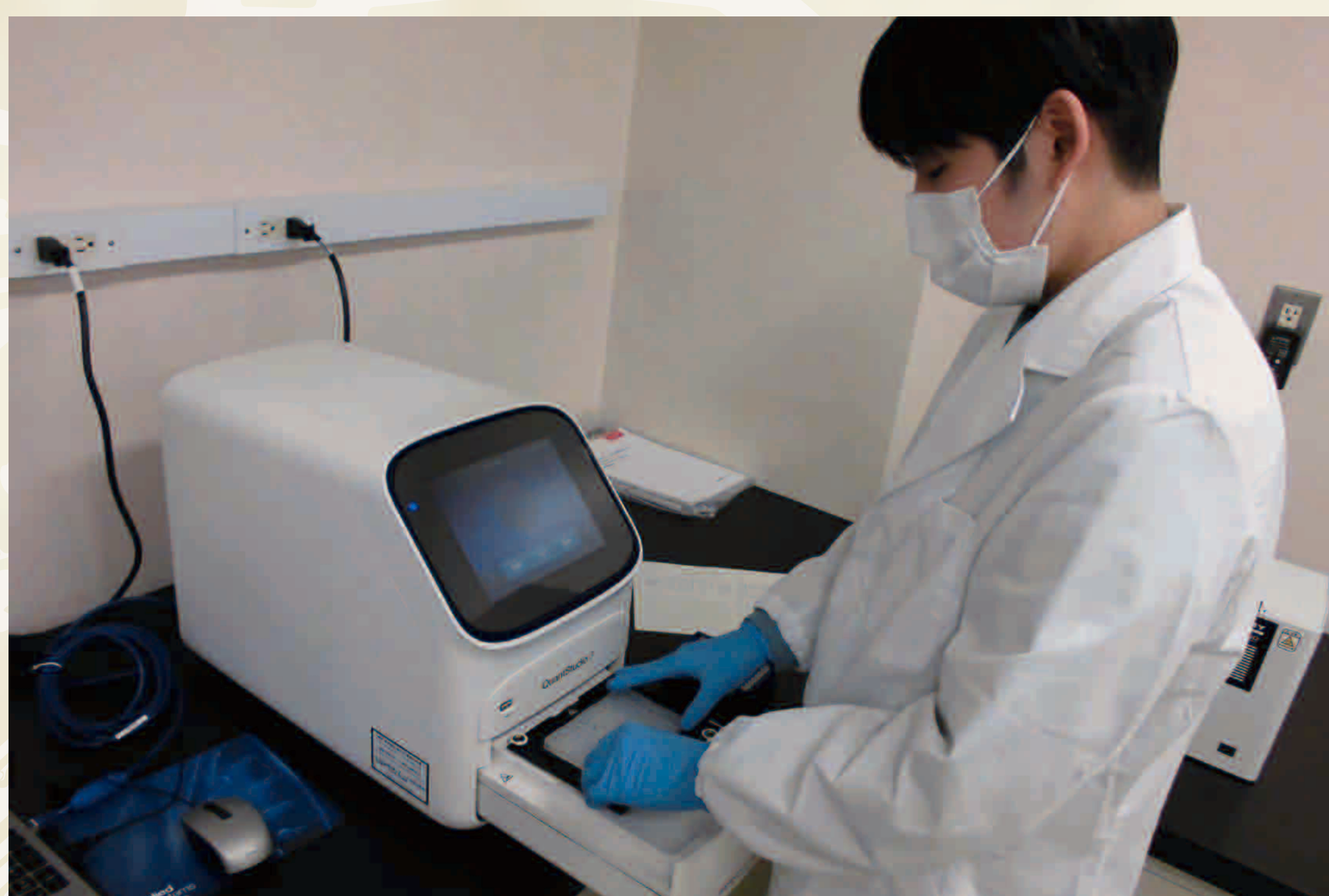
さっぽろ下水道100年のあゆみ



東雁来雨水ポンプ場 運転開始(2018年)
現在の16か所のポンプ場体制へ



北海道胆振東部地震での被災状況(2018年)
液状化によるマンホール浮上等の管路被害



新型コロナウイルスの流行に対し、下水中のウイルスを
検査・監視する下水サーベイランスを実施(2021年～)



北海道で初となる下水道展の開催(2023年)



能登半島地震 被災地への職員派遣(2024年～)

100年の間に整備された、
札幌市を支える主な下水道施設

管路

約8,300km

水再生プラザ

10か所

ポンプ場

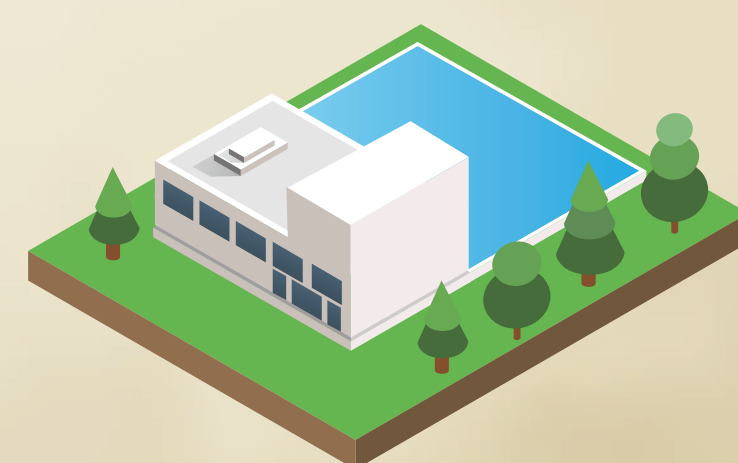
16か所

汚泥処理施設等

5か所

雪処理施設

17か所



次の100年へ、
つながる下水道